

伊敷団地まちづくりニュース

第1号

～団地活性化に向けた取組がスタートしました～

平成31年1月29日発行

市では、若者から高齢者まで多様な世代が暮らす活力ある団地づくりを目指して、30年度からの約3年間で、**ワークショップ形式**により具体的な取組について検討を進めてまいります。

このワークショップでの検討過程を広く地域の皆様に知っていただくため、まちづくりニュースを作成しました。

ワークショップとは、地域住民等による話し合いを通して、自由なコミュニケーションを行いながら、何かを作り上げていく手法の一つです

もくじ

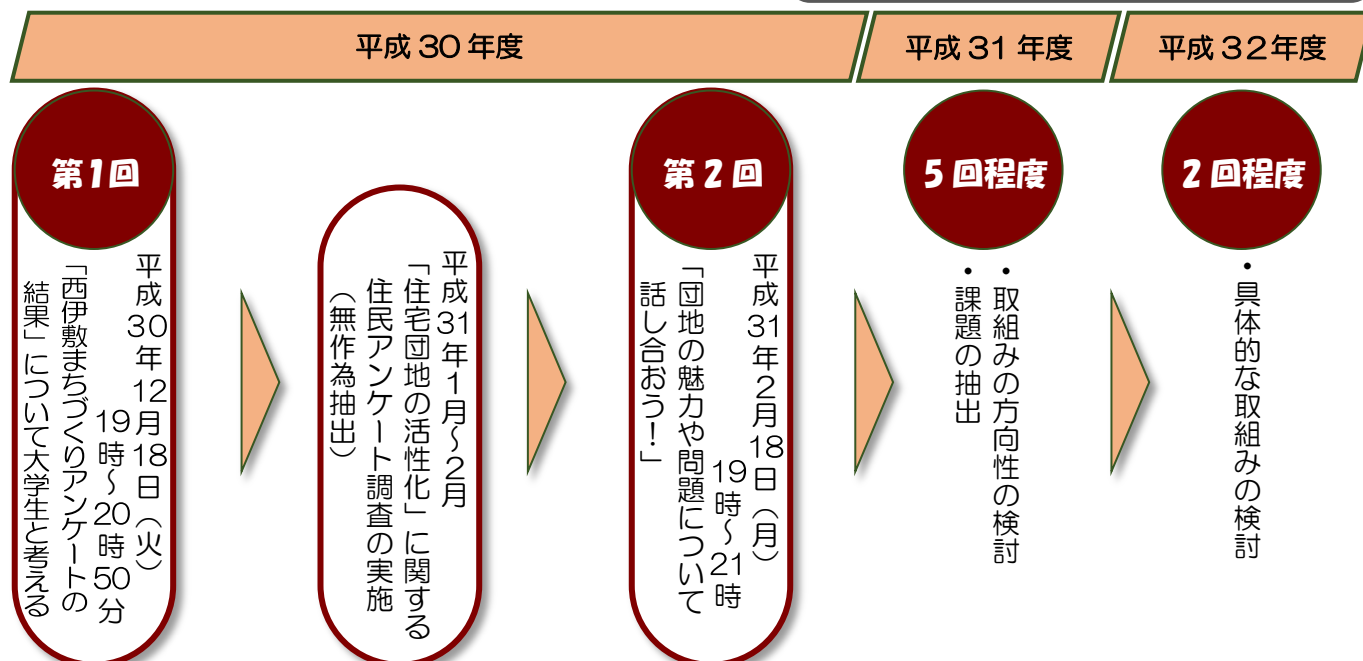
1. 「団地の活性化」って具体的にどう進めるの？
2. そもそも「団地の活性化」とは？
3. 第1回はどんなことをしたの？
4. 次回のお知らせ

1. 「団地の活性化」って具体的にどう進めるの？

このワークショップでは、「伊敷団地」の魅力や困っていることなどについて、地域の方々と意見交換を行います。

その中から出てきた、団地の魅力や課題等を踏まえ、「もっと伸ばしていきたいところ」や「改善したいところ」を共有します。また、それを実現するために自分達で「できること・やってみたいこと」について話し合い、団地の活性化に向けた「具体的な取組み」について検討していきます。

■ 検討スケジュール（ワークショップ等）



【第1回の様子】



ワークショップに参加されていない方からもご意見を聞くため、**住民アンケート**等も実施します

※「まちづくりニュース」は、ワークショップ等の開催後、随時発行し、地域の皆様に検討状況などの情報発信を行います。

2. そもそも「団地の活性化」とは？（国土交通省による取組みイメージ）

団地の問題

人口減少や高齢化等により問題が発生

- ・人口が減っている。進学等により子供が団地から転出している。
- ・高齢者が増えている。
- ・空き家が増えてきた。
- ・様々な店舗が減っている。
- ・起伏や段差が多く移動が大変。
- ・車がないとスーパーにも行きづらい。

団地の魅力

一方で、団地には魅力的な資源がある

- ・緑や自然が多くて環境が良い。
- ・長年住んでいて近所とも交流が深い。
- ・日常生活用品が団地内で揃い、バス便があって中心部にも近い。
- ・賃貸住宅（公営住宅）等には子育て世帯の転入もみられる。

「団地の活性化」のためには、

- ・高齢者になった居住者が、健康に住み続けることのできる「団地」
- ・空き家等の住宅に、若者や子育て世帯が円滑に住み替えることのできる「団地」を目指して「団地」の魅力向上を図ることが重要です。

そこで、「団地の活性化」のために地域の方々とワークショップにて検討を行い
具体化な取組みにつなげていきたいと考えています。

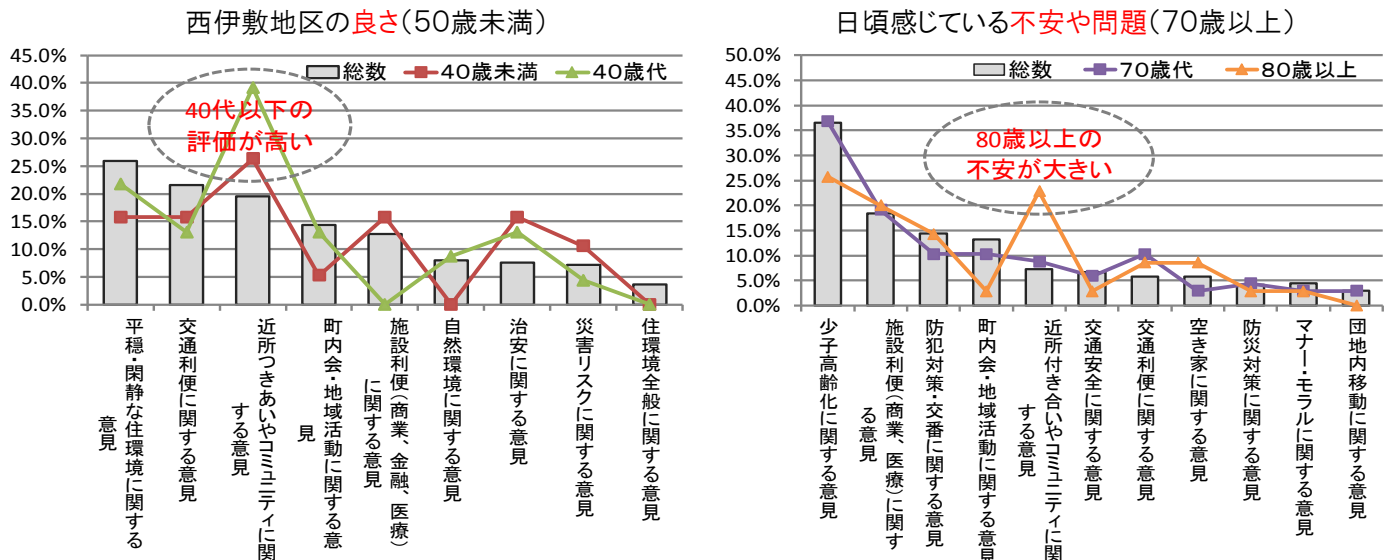
■取組みイメージ（例示）



3. 第1回はどんなことをしたの？

第1回では、まちづくりプラン策定のために西伊敷まちづくり協議会が独自に実施したアンケートの結果から、住民の目線からみた伊敷団地の良いところや問題について共有し、また外部からの目線として、鹿児島大学建築学専攻の小山先生と研究室の学生から、まち歩きや研究の結果について発表し、団地内の魅力や困っていることなどについて意見交換を行いました。

■「西伊敷まちづくり」アンケート結果の一例（西伊敷まちづくり協議会 実施）



※近所つきあいやコミュニティに関しては、50歳未満の世代は西伊敷地区の良さと感じているが、80歳以上の世代は不安を感じている。

■伊敷団地 まち歩きの報告（鹿児島大学建築学専攻 小山研究室）

団地核(西伊敷3丁目)には、スーパーや市営住宅等のまとまりがあるが、もう1つの団地核(西伊敷6丁目)は店舗が減少し、寂しい状況です

生垣や花壇など緑豊かな家並みで、斜面地のひな壇造成で手すりを設置している所もあるが、桜島を望める住宅地です

開発当初の計画にはなかったものとして、福祉系の施設が点在しています



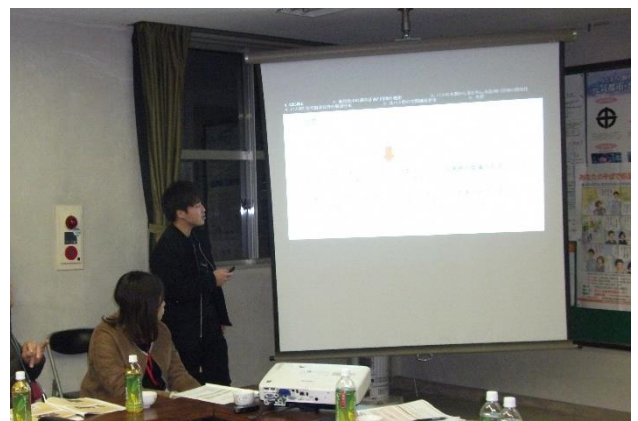
まち歩き風景(平成30年8月)

■郊外住宅地におけるバス停の立地と空間構成に関する研究 -鹿児島市における大規模住宅団地を対象として-（鹿児島大学建築学科4年 柚木崎さん）

バス停の立地は店舗と関係性があります。一方で、屋根やイスなどが無いバス停も多く、空間としてバス停の魅力があまり感じられません

バス停が休憩所のような空間になれば、さらに快適になり待つことが苦にならなくなります

バス停が他のいくつかの要素と共に機能することが地域活性化のために必要です



学生による発表


■意見交換

これからのワークショップに向けて、「団地の住みやすさ」について意見交換したところ、様々な意見が出ました。

次回のワークショップでは、今回出たキーワードをもとに、団地の魅力や問題について掘り下げて意見交換を行います。

■ワークショップで出し合った皆様のご意見（ご意見を多く頂いたものを抜粋しています）

<p><暮らし></p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物が不便 ・お店の数が少ない ・飲食店やスーパーが減った ・スーパーでの買物の様子に活気がある ・福祉施設が充実している 	<p><住環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールを希望する意見が多いが、若い人の参加が少ない。まちへの関心度が低下している ・街灯が少ない（怖い） ・坂が多い ・緑が多い、公園がある
<p><人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん達が明るい ・3世代同居や近居が多い ・小学校のクラスは減少 ・若者と高齢者が共生するための努力が必要 	<p><空き家・空き地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団地に移ってきた若者のために空き家を活用できないか ・空き地を交流拠点としてはどうか
<p><交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集まる場所がない ・生活圏が広域化して、一つの所に滞留する時間が短い ・人と自然に出会えるとよい（例：中央公園での朝の体操） 	
<p><制度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一種低層住居専用地域(※)の制限の為にほとんど何もできない、用途緩和が必要 ・2世帯住宅に対して助成できるか 	<p><交通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通が不便 ・車が多い ・通り抜けるだけで、団地にお金を落とさない
<p><アンケート結果に関する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の多様化により、世代だけで整理できないものもある ・地域ごとに住環境に違いがある、例えば5丁目にはお店や公園もない 	<p><西伊敷まちづくりプランに関する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他団地と抱えている課題は同じで差別化できない ・今住んでいる高齢者等を地域で支えるのは良いが、減少傾向の団地に新しく若者を受け入れるのは現実的なのか、目標にしているのか

※第一種低層住居専用地域とは…	建てられる用途
<p>低層住宅のための地域です。小規模なお店や事務所をかねた住宅などが建てられます。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸建住宅・共同住宅等 ・一定規模以下の兼用住宅（事務所、店舗、学習塾、工房等） ・学校・図書館等 ・神社・寺院・教会等 ・老人ホーム・保育所・福祉ホーム等 ・公衆浴場 ・診療所 ・巡査派出所（交番）・公衆電話所等

4. 次回のお知らせ

【第2回ワークショップ】 団地の魅力や問題について話し合おう！

日時：平成31年2月18日（月）19時～21時 場所：西伊敷校区公民館

皆様のご参加、ご意見お待ちしております！

- 鹿児島市 都市計画課（担当：井上^{いのうえ}、諏訪田^{すわだ}）
連絡先：099-216-1378 FAX：099-216-1398
メール：toshikeikaku@city.kagoshima.lg.jp
- ランドブレイン株式会社 鹿児島事務所（業務受託事業者）
連絡先：099-210-9091（担当：大脇、岩切）